

第93回秋のすぎなみ区民歩こう会・ワンポイントガイド

利根川や渡良瀬川など豊かな水に恵まれ、また最近では日本一ホットな町として連日全国に報道され有名になった館林を、歴史と自然にふれながら散策しませんか。

館林は「鶴舞う形」と云われる群馬の南東部、鶴の頭の部分に当たり関東地方のほぼ中央にあり、県で東京に最も近い町。平成24年に開業した東京スカイツリー（高さ634m）までは63.4km。

茂林寺（分福茶釜）



- ・お伽話「分福茶釜」ゆかりの寺として知られ、本堂には釜が安置されている。分福茶釜には、茶釜から手足をだして綱渡りする狸の姿のお伽話「ぶんぶく茶釜」と、狸伝説としての「分福茶釜伝説」の二通りの説話がある。参道に並ぶ20体ほどの狸像、また境内いたるところで多くの狸像が参拝者を出迎える。
- ・周辺の茂林寺沼湿地は、湿原動植物の生息地になっており、葦林や野鳥のさえずりを聞きながら公園内を散策できる。



つつじが岡公園・城沼

- ・城沼の南に広がる日本を代表するツツジの名所。（花の見頃 4月中旬～5月上旬）樹齢800年を超えるヤマツツジの巨樹群が自然形のまま保存されている。また江戸キリシマ古木群など非常に珍しい品種も見られる。
- ・城沼はハスの名所でもあり、夏には「花ハスマつり」も開催される。まつり期間中は遊覧船も運航され、大きなピンクのハスの群の中を進み、ハスの森を分け入るジャングルクルーズを体験することができる。（運行期間7月10日～8月15日）
- ・城沼は周囲8km、水深1.5mの東西3.8kmの細長い沼。周囲には、つつじが岡公園や尾曳神社がある。かつて館林城は、この沼を天然の要害として利用した。

館林城・尾曳稲荷神社・土橋門・秋元別邸

- ・**館林城（別名尾曳城）**：戦国時代の天文元年（1532）、赤井照光により築城されたとする説が有力。築城の際、子ぎつねを助けところ、お稲荷様の化身の白きつねが現れ、尾を引きながら城の縄張りをして、城の配置を教えてくれた（狐の尾曳伝説）。これを吉兆と思い築城、尾曳城と名付ける（のちの館林城）。徳川四天王の一人、榊原康政が石垣や天守を持つ近代的な城に造り変えた。明治7年（1874年）焼失、廃城、現在土塁の一部が残っている。
- ・**土橋門**：三の丸の入口には、昭和58年土橋門が復元。
- ・**尾曳稲荷神社**：館林城築城の際、本丸から見て北東の鬼門方向に稲荷を設け、鬼門鎮守社として建立。その為社殿は、本丸のある西側方向、神社建築としては珍しい西向きの社殿。
- ・**秋元別邸**：最後の館林藩主「秋元家」の明治後期に建てられた別邸を東京から移築。和風建築と洋館の調和が美しい。

田山花袋記念文学館・向井千秋記念こども科学館・旧上毛モスリン事務所

- ・**田山花袋記念文学館**：明治4年館林生まれの小説家。尾崎紅葉のもとで修業したが、後に国木田独歩、柳田國男らと交わる。「布団」「田舎教師」などの自然主義派の作品を発表し、その代表的な作家の一人。
- ・**向井千秋記念こども科学館**：館林出身でアジア初の女性宇宙飛行士が2度にわたり宇宙に旅した際に携えた“きゅうり”や“つつじ”等を展示。「体験の世界」、「観察の世界」、「宇宙の姿」、「応用の世界」など4つの展示室で科学の原理や法則を楽しみながら新しいことを見たり考えたりできる。
- ・**上毛モスリン**：地元周辺の伝統技術を生かした近代的製織会社として設立。事務所は明治41年～43年（1908～1910）洋風志向を生かして二の丸跡に建設。洋風建造物としては有数のもので、地域の近代

史を知るうえで重要な文化財。

まちなか散策ガイド（館林駅～土橋門）

- ・ **田中正造記念館**：環境への関心が高まる中、鉱毒事件を最大の環境破壊と捉え、身近な環境を守る事の大切さを訴えるため、一般の人に分かりやすく鉱毒事件を伝える行動を行っている。
銅生産に伴う排ガスや伐採で、山が荒廃し、洪水で渡良瀬川流域が鉱毒に汚染されたため、流域住民の生活が脅かされた歴史と、田中正造の反対闘争などが展示されている。
- ・ **武鷹館（ぶようかん）**：部屋を横一列に配置する武家住宅特有の間取り、武家の暮らしの様子や建築様式を伝える歴史的な建造物。中級武士の住宅、移築に合わせ長屋門や付属住宅を修復し、屋敷門や塀など整備して武家屋敷の雰囲気や景観を創出した。
- ・ **鷹匠町（たかじょうまち）長屋門**：
高さ 6.6m、幅 17.9m で「歴史の小径」シンボル。武家屋敷の集中していた所に雰囲気を再現するため、農家の古材を利用し再現。門の内側は芝生広場として開放。
- ・ **青梅天満宮**：菅原道真が左遷のおり、なげた四つの梅の実の一つがこの地に飛び、青梅天満宮となったと言われている。
- ・ **旧二業見番組合事務所**：昭和 13 年（1938）に芸奴屋業と料亭業の二業を取り仕切る事務所として建てられた。390 m²のいわゆる料亭建築。
- ・ **外池商店**：和泉屋の屋号で江戸時代に創業。味噌や醤油の醸造業を営んでいた店舗。
- ・ **毛塚記念館**：江戸時代に建てられ、町屋の特徴を良く残している造り酒屋「分福酒造」の店舗。
- ・ **竜の井（たつのい）**：かつてこの地にあった善導寺の井戸。館林の綺麗な水が流れる。城沼に住む竜神の妻が、お寺を守るためこの井戸に入ったことから竜の井と呼ばれる。この井戸と「清竜の井戸」、「城沼」が繋がっていると云う伝説もある城下町館林ゆかりの井戸。

多々良沼・彫刻の小径（こみち）

- ・ **多々良沼**：館林の西部にあって邑楽（おうら）町に隣接し、北は渡良瀬川、南は利根川に挟まれた低地帯。面積 75ha、周囲約 6 km の広大な沼。
周囲は水田や小高い丘の赤松林に囲まれた緑豊かな景観と、魚介類や水生植物、野鳥、昆虫などが生育する豊かな自然に恵まれた湖沼。かつては、絶滅品種「タカノホシクサ」が生息していた唯一の地。近年白鳥の飛来地として広く知られている。
- ・ **彫刻の小径**：多々良沼周辺の自然の中にあり、2 km にわたり地元彫刻家、藤野天光の作品を觀賞しながら散策を楽しむことができる。（今後 370 点展示予定）

ご当地グルメ「館林うどん」・製粉ミュージアム



- ・ **館林うどん**：「水沢うどん」「桐生うどん」と共に群馬三大うどんとして有名。
特に「分福茶釜の茶釜うどん」はしこしこした「館林のうどん」と「分福茶釜」、地元正田醤油が三味一体となったユニークなご当地グルメ。温泉玉子入りと揚げ玉入りが基本レシピ。
また、絹産業世界遺産の県らしく、「まゆたまの繊維入り」とユニークなうどんもある。
- ・ **製粉ミュージアム**：群馬は水田の裏作として小麦栽培が盛んで全国有数の生産量を誇る。小麦連産品、加工品の原料を、供給する「日清製粉」は館林が創業の地。
小麦・小麦粉・製粉技術の歴史などを楽しく学べる「製粉ミュージアム」を平成 24 年（2012）開館。企業ミュージアム。



モスリン事務所



旧秋元別邸



旧二業見番組合事務所